

第四紀洪積世と呼ばれる氷河期で知られる時代からもう少し古い第三紀鮮新世にかけての地層が分布します。一番下には、飯能層（(飯能礫層)城山の崖で見られます）、滝不動のところで段丘の話を紹介していますが、下末吉面で堆積した金子礫層と上部の鶴ヶ丘粘土層、火山灰層（関東ローム層）、標高 35m 以上では、金子礫層に変わって武蔵野面の武蔵野礫層と火山灰層（関東ローム層）が覆っています。いずれの礫層も礫という名前が付きますが、粘土層や砂層も挟んでおり、一様ではありません。水道用などの深井戸が断面図に示されていますが、金子礫層と飯能層の水をとるために掘られています。もちろん、武蔵野礫層でも家庭用などの浅い井戸がたくさん掘られています。

昭和 50 年に新藤静夫先生たちが坂戸台地の地下水分布を調べました。たくさんの井戸で一斉に地下水面の高さを測定するもので、この結果を等高線で表すと、下の図のようになりました。



坂戸台地の浅層地下水の流動状況と湧水帯 (新藤 1975 の湧水資料より)

出典：鶴ヶ島町 鶴ヶ島町史自然編 I 平成 2 年 3 月

等高線と直行して地下水は流れます。昔の坂戸台地は雑木林に覆われ、関東ローム層は亀裂が多いため、台地に降った雨はかなりの量が地下に浸透します。そしてこのような地下水として蓄えられました。今では、水道水などの水源として井戸でくみ上げられ、また都市化が進み、雨水は地下に入らず、川にさっと流れてしまいます。また、水道水として使われた後の下水は、小畔川の方角に排水されます。このため、高麗川方向へ向かう水が少なくなり、高麗川の水位低下に繋がっているのではと心配されています。

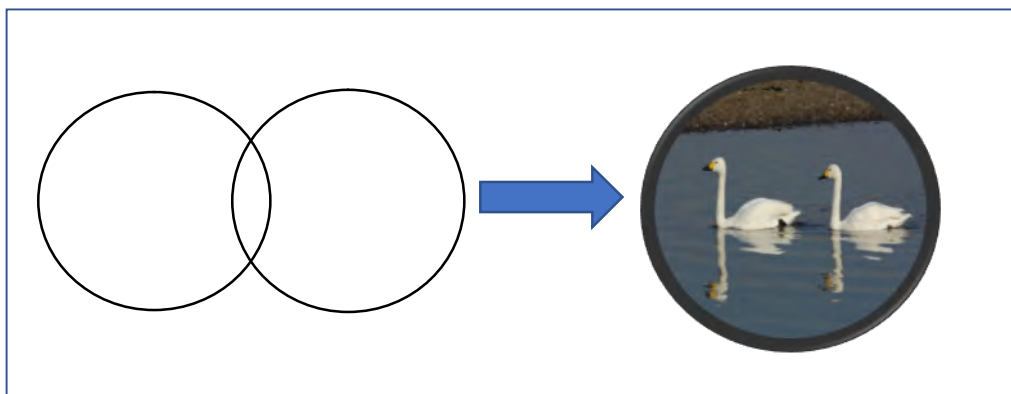
(稲垣)

9. 観察のコツ

9.1 鳥たち

(1) 双眼鏡の調整

- ① メガネをかけている人は目当てゴムを折ります。
- ② 両目でのぞき、目の幅をあわせて、視界を丸くします。



- ③ 右目を閉じて左目だけでのぞき、双眼鏡の中央にあるピントリングを動かしてピントを合わせます。
- ④ 左目を閉じて右目だけでのぞき、右目の接眼レンズ近くの視度調節リングを動かしてピントを合わせます。
- ⑤ 両目でのぞいてクリアだったら準備完了です。
 - ☆ この後は両目でのぞき、ピントリングだけでピントを合わせることができます。
 - ☆ 双眼鏡のおすすめの倍率は8倍×30ミリ(口径)です。10倍、口径が小さいものは視野が狭くなるので野鳥を探すのが難しくなります。

(2) 野鳥の探し方

- ① 肉眼で、広く眺めて、風景の中で動く物を探します。
動く物は、野鳥、昆虫など動物であることが多いです。
- ② 野鳥を見つけたら、頭を動かさずに、野鳥を見ている状態のまま双眼鏡を当ててのぞきます。野鳥から目を離すと見失ってしまいます。
- ③ 野鳥が好きな場所、さえずりや地鳴きを覚えると見つけやすくなります。
- ④ 野鳥を見つけたら、その野鳥が何をするのか、しばらく観察してみましょう。
実を食べたり、狩りをしたり、争ったり、子どもの世話をしたり、野鳥の生活には不思議がいっぱいです。

(富田)

コラム 野鳥が好きな木の実



ヌルデ(ウルシの仲間)の実の人気



↑シメ

↓ヤマガラ 松かさの間の種子を食べる。

↑イカル サクランボも大好き。ドン
グリも固いくちばしで食べてしまう。



↑毒のあるエゴノキの実
もヤマガラは平気



ぼくはアオゲラ
キツツキだから、
木をつついて虫
を探すのが得意。
でも、木の実も大
好き。エノキの実
は、おいしいよ。

(富田)

9.2 植物

花の観察 表記の花期は目安です。 / 全ての花を見るには毎週訪れる。

植物を見分けるには花を見るのが一番ですし、目を楽しませてくれるのも花です。けれども花の咲く時期は種によって異なり、春に咲く花、夏や秋に咲く花、冬に咲く花もあります。そして桜のように短期間に一せいに咲いて散るものもあれば、長い間咲いているものもあり、その年の気候によっても変わります。ですから図鑑に記されている花期は目安です。また同じ時期の花でも少しずつ開花が異なる場合が多く、特に春から夏にかけての城山で全ての花を見るには、1週間から10日ごとに訪れることになります。



どっちがどっち 樹木の見分け方

スギやヒノキ、コナラやクヌギなどは普段よく聞く名前ですが、山ではなかなか見分けがつきにくいものです。樹木は、花のない時期は木肌(樹皮の色と模様)と葉の形から種類を見分けます。高い所の葉は双眼鏡で確かめます。冬の落葉樹は周りの落ち葉を探して葉の形を確かめます。以下に城山の主な樹木の木肌と葉の特徴を示しました。

スギ (常緑樹)

樹皮：茶褐色で縦に細い皮目で剥がれる。
葉：1cm くらいの針状で小枝に密集。



シラカシ (常緑樹)

樹皮：灰白色で小さな凹凸がある。
葉：7~14cm の狭楕円で緩い鋸歯がある。



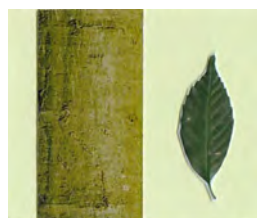
ヒノキ (常緑樹)

樹皮：赤褐色でスギより巾広く剥がれる。
葉：1~3mm の鱗状で網目状に広がる。



アラカシ (常緑樹)

樹皮：薄茶色で小さな凹凸がある。
葉：7~12cm の楕円で先半分に荒い鋸歯。



コナラ (落葉樹)

樹皮：灰白色で縦に不規則な皮目がある。
葉：5~12cm の倒卵形で荒い鋸歯がある。



ヤマザクラ (落葉樹)

樹皮：紫褐色で横に皮目が入る。
葉：8~10cm の卵形で細かな鋸歯がある。



クヌギ (落葉樹)

樹皮：濃褐色で縦横に不細かな溝が入る。
葉：8~15cm の披針形で鋭い鋸歯がある。



イヌザクラ (落葉樹)

樹皮：灰白色で横に皮目がはいる。
葉：5~10cm の楕円で細かな鋸歯がある。



(萩原)

9.3 魚たち

観察をするには、たも網を持って、川に入りましょう。色々な種類の魚が捕れます。釣りも良いですが、釣れる魚に限られます。たも網がお勧めです。

たも網を持って川に入るには、それなりの格好が求められます。一つには自分の足が魚を捕まえる道具になるからです。また、高麗川は大きな石がごろごろしているところが多いので、足元をしっかりとする必要があります。サンダルなどではなく、運動靴など足にフィットするものを履いて入りましょう。

たも網は、プロ仕様は右の写真のとおりです。もちろん、一般の釣り道具屋さんにある直径 30 cm の丸いたも網で大丈夫です。柄の長さは 1 m ほどあったほうが使いやすいです。

たも網の使い方も右の写真を参照にしてください。

まずは、たも網を魚が居そうな場所の下流側に立てて固定します。片足はたも網の横に置きます。そして、上流側からもう一方の足でジャバジャバと魚を追い立てて、網に誘います。網をしっかりと固定することが大事です。

狙う場所は、魚の種類で主に 2 つあります。

基本は、岸辺で魚が隠れるのによさそうな草が覆いかぶさっている場所を狙います。

もう一つは、流れの中心の大きな石の影を狙います。こちらは、カジカの狙い場所です。ここでも下流側にたも網を固定して、石の周りを足でジャバジャバしたり、石を動かす等で追い立てて、網に誘います。

湧き水があるところも狙い場所です。ジュズカケハゼなど、湧水が好きな魚がいます。

魚捕りの注意事項がいくつかあります。

流れがあるところでは膝より上に水面が来ると流されると思ってください。夢中になって、深みにはまらない様に注意願います。

触るときに注意が必要な魚がいます。例えば、ギバチはトゲを持っていて刺されると結構痛いです。見たことのない魚を触る時には注意願います。

捕った魚は、観察が済んだら川に返すのが基本です。可愛いので持ち帰りたいたいが、水温の管理などは簡単ではありません。死なせてしまうことが多いです。ただ、コクチバスなどの特定外来種は放すことが出来ません。コクチバスは美味しいので持ち帰って食べることをお勧めします。

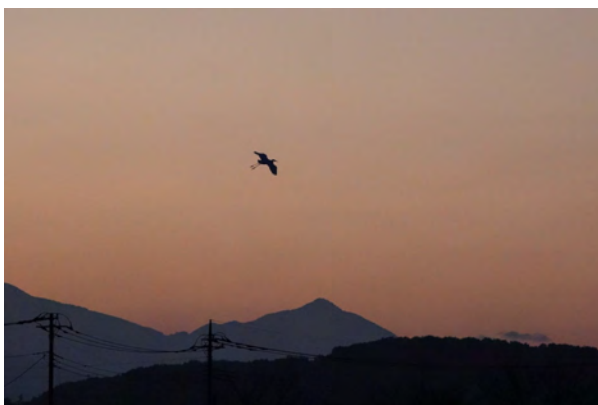
(稲垣)



観察の一コマ（水辺）



朝方、水辺に集まるダイサギ



夕方、ねぐらへ帰るダイサギ



水面をはねる小魚。水の上を飛んでいる虫を食べています。



メダカの雌（上）と雄（下）
雌はシリビレが三角形に近く背ビレに切れ目がありません。
雄はシリビレが大きく平行四辺形に近く背ビレに切れ込みがあります。

10. 観察の記録

10.1 野鳥観察会の記録

環境学館いずみの自然観察の講座で観察した野鳥と市民団体（高麗川ふるさと会、坂戸サワギキョウ会・鳩山野鳥の会）が観察した野鳥の記録を表にまとめました。

① 場所：城山（新しき村～城山の森～高麗川）

滝不動（森戸橋～多和目橋）

浅羽ビオトープ（若宮橋～関越自動車道までの川、河川敷、浅羽側田んぼ）

こはるが池（池、周辺田んぼ、葛川含む）

小沼（道場橋～東清掃局までの越辺川兩岸、坂戸側の田んぼ含む）

② 時期：平成11年～令和2年3月

③ 観察者：環境学館いずみ観察会参加者、坂戸サワギキョウの会会員、高麗川ふるさと会の会員、鳩山野鳥の会会員

④ 方法：目視、双眼鏡、フィールドスコープでの観察

⑤ 記録の対象：野鳥

⑥ 種の同定：2名以上の目視、さえずり・地鳴きの聞き取り、食痕、羽毛採取、写真判定

⑦ 表の見方：上記期間に坂戸市内で確認した野鳥をすべて表に記載しました。

観察した季節に下記の記号を記入しました。

◎→いつも観察できる、○→観察できることが多い、△→ときどき観察できる、▲→まれに観察できる

珍しい野鳥や猛禽類の撮影のために多くの人が集まり、トラブルになることが懸念されるため、観察した場所については、記載を避けました。

<増えている野鳥>

トビ、ノスリ、ヤマガラ、キビタキ、アオサギ、ハシブトガラス、ガビチョウ

<減っている野鳥>

ホオジロ、カシラダカ、オオヨシキリ、チュウサギ、コサギ、ゴイサギ、ササゴイ、コシアカツバメ、イワツバメ、アマツバメ、ヒメアマツバメ、サシバ、イカルチドリ、タゲリ、ケリ

<見られなくなった野鳥>

ヤマセミ、チュウヒ、アマサギ、シラコバト、ヨシゴイ、ニューナイスズメ、ホオアカ

市内の住宅地を流れる飯盛川はかつて生活排水が問題になりましたが、下水道の普及率が上がり、水質が改善され、カワセミやバン、セキレイなど野鳥が戻ってきています。カルガモの営巣も確認されています。坂戸は変化に富んだ自然環境が身近にあるので、たくさんの野鳥に出会えます。しかし、20年前と比べると出会える種の数には確実に減少しており、野鳥の生息環境は国内の他の地域と同様に劣化していると思われます。

坂戸の野鳥 (1999~2020年)

◎いつも、○ふつうに、△ときどき、▲まれに
3~5月 6~8月 9~11月 12~2月

科名	種名	春	夏	秋	冬	時期不明
キジ科	キジ	◎	◎	◎	◎	
カモ科	オオハクチョウ				▲	
	コハクチョウ	△		△	◎	
	アメリカコハクチョウ				▲	
	オシドリ			▲	▲	
	マガモ	○		○	○	
	カルガモ	◎	◎	◎	◎	
	トモエガモ				▲	
	コガモ	◎		◎	◎	
	ヨシガモ				△	
	オカヨシガモ	△		△	△	
	ヒドリガモ			△	△	
	アメリカヒドリガモ (交雑)				▲	
	オナガガモ	○		△	◎	
	ハシビロガモ				△	
	ホシハジロ			▲	▲	
	アカハジロ				▲	
	キンクロハジロ			△	△	
スズガモ				▲		
ホオジロガモ				▲		
ミコアイサ				▲		
カイツブリ科	カイツブリ	◎	◎	◎	◎	
	カヌムリカイツブリ				▲	
ハト科	キジバト	◎	◎	◎	◎	
	シラコバト	▲	▲			
	アオバト	▲				
ウ科	カウウ	◎	◎	◎	◎	
サギ科	ヨシゴイ	▲	▲			
	ミゾゴイ	▲				
	ゴイサギ	△	△	△		
	ササゴイ		△	△		
	アマサギ		▲			
	ダイサギ	◎	◎	◎	◎	
	チュウサギ			△		
	コサギ	○	○	○	○	
	アオサギ	◎	◎	◎	◎	
クイナ科	クイナ				△	
	ヒタイナ					▲
	バン	○	○	○	○	
	オオバン	◎		○	◎	
カッコウ科	カッコウ		△			
	ホトトギス		○			
	ツツドリ	▲		▲		
ヨタカ科	ヨタカ				▲	
アマツバメ科	ヒメアマツバメ	▲				
	アマツバメ			▲		
チドリ科	チドリ	○	○			
	イカルチドリ	○	○	○	○	
	ムナグロ	▲				
	ケリ				▲	
	タケリ				▲	
	ヤマシギ				▲	
シギ科	ダシキ				▲	
	アカアシシギ					▲
	ツルシギ			▲		
	アオアシシギ			▲		
	クサシギ	△		△	△	
	タカブシギ					▲
	キアシシギ	▲				
	イソシギ	○		○	○	
	トウネン					▲
	ハマシギ					▲
	アカエリヒレアシシギ		▲			

科名	種名	春	夏	秋	冬	時期不明
カモメ科	ユリカモメ				▲	
	カモメ				▲	
	セグロカモメ					▲
	アジサシ	▲				
	コアジサシ	▲				
ミサゴ科	ミサゴ			△	△	
タカ科	ハチクマ					▲
	トビ	○	○	○	○	
	ツミ	○	○	△		
	オオタカ	○	○	○	○	
	ハイタカ	○		○	○	
	サシバ	▲	▲	▲		
	ノスリ	○	△	△	○	
	イヌワシ					▲
	ハイイロチュウヒ				▲	
	チュウヒ				▲	
フクロウ科	コミミズク				▲	
	フクロウ	▲	▲	▲	▲	
	アオバズク	▲	▲			
カワセミ科	カワセミ	○	○	○	○	
	ヤマセミ	▲				
キツツキ科	アリスイ			▲		
	アカゲラ	○	○	○	○	
	アオゲラ	○	○	○	○	
	コゲラ	◎	◎	◎	◎	
ハヤブサ科	ハヤブサ			△	△	
	コショウゲンボウ	▲				
	チョウゲンボウ	○	○	○	○	
サンショウクイ科	サンショウクイ	△				
カササギヒタキ科	サンコウチョウ	△	△			
モズ科	モズ	◎	◎	◎	◎	
カラス科	オナガ	◎	◎	◎	◎	
	カケス	○	○	○	○	
	ハシブトガラス	◎	◎	◎	◎	
	ハシボンガラス	◎	◎	◎	◎	
シジュウカラ科	ヤマガラ	○	○	○	○	
	ヒガラ	▲				
シジュウカラ	◎	◎	◎	◎		
ヒバリ科	ヒバリ	○	○	○	○	
ツバメ科	ショウドウツバメ			▲		
	ツバメ	◎	◎	△		
	コシアカツバメ	▲		▲		
	イワツバメ	△				
ヒヨドリ科	ヒヨドリ	◎	◎	◎	◎	
ウグイス科	ウグイス	◎	○	○	◎	
	ヤブサメ	△	△			
エナガ科	エナガ	○	○	○	○	
ムシクイ科	メボソムシクイ	▲				
	エゾムシクイ	▲				
	センダイムシクイ	▲				
メジロ科	メジロ	◎	◎	◎	◎	
ヨシキリ科	コヨシキリ		▲			
	オオヨシキリ	△	△			
セッカ科	セッカ	△	△			
レンジャク科	ヒレンジャク	△			△	
	キレンジャク	△			△	
ミソサザイ科	ミソサザイ				▲	
ムクドリ科	ムクドリ	◎	◎	◎	◎	
	コムクドリ	▲				

増えている鳥

◎いつも、○ふつうに、△ときどき、▲まれに
3～5月 6～8月 9～11月 12～2月

科名	種名	春	夏	秋	冬	時期不明
ヒタキ科	トラツグミ	▲			▲	
	シロハラ	○		△	○	
	アカハラ	△			△	
	ツグミ	◎		○	◎	
	コルリ	▲				
	ノゴマ					
	ルリヒタキ				▲	
	ジョウビタキ	◎		○	◎	
	ノビタキ			△		
	インヒヨドリ				▲	
	エゾビタキ			▲		
	サメビタキ			▲		
	コサメビタキ			▲		
キビタキ	○	○				
オジロビタキ					▲	
オオルリ	△	△				
イワヒバリ科	カヤクグリ					▲
スズメ科	ニューフェイスズメ	▲				
	スズメ	◎	◎	◎	◎	
セキレイ科	キセキレイ			○	○	
	セグロセキレイ	◎	◎	◎	◎	
	ハクセキレイ	◎	◎	◎	◎	
	ピンズイ				△	
	タヒバリ				△	
アトリ科	アトリ	△		△	△	
	マヒワ	▲				
	カワラヒワ	◎	◎	◎	◎	
	ベニマシコ	△		△	△	
	ウン				▲	
	シメ	○		△	○	
	コイカル					▲
	イカル	△		△	△	
ホオジロ科	ホオジロ	◎	◎	◎	◎	
	ホオアカ	▲	▲			
	カシラダカ	○		△	○	
	ミヤマホオジロ				▲	
	アオジ	○		△	○	
	クロジ				▲	
	コジュリン				▲	
	オオジュリン				△	
観察種合計	162					
外来種キジ科	コジュケイ	○	○	○	○	
外来種ハト科	カワラバト(ドバト)	◎	◎	◎	◎	
外来種	カオグロガビチョウ	○	○	○	○	
	ガビチョウ	◎	◎	◎	◎	
	ベニスズメ				▲	
	ソウシチョウ				▲	
	バリケン				▲	
計	169					

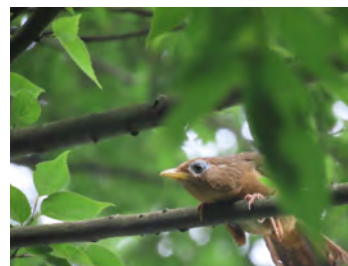
注) 赤の着色は埼玉県のレッドデータブックに記載されている種。
なお、全県DDは除き、RTは本誌では全県RTで記載しているが、このリストでは丘陵地と荒川以西に該当した種のみ記載した。



ノスリ



アオサギ

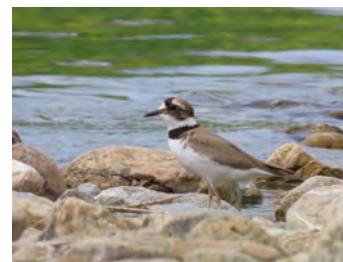


ガビチョウ

減っている鳥



カシラダカ



イカルチドリ



ゴイサギ

(富田)

観察の一コマ（大人になる）



サナギから脱皮したばかりのキアゲハ。イタリアンパセリの植木鉢で育ちました。



同ジャコウアゲハとそのサナギの殻。環境学館いずみ生まれです。



シジュウカラの雛。お母さんの真似をして餌を採る練習中。トレードマークのネクタイ模様がまだ薄いです。



巣立ったばかりのスズメ。親がすぐ近くで心配そうに見守っています。嘴の黄色が初々しいです。

10.2 魚観察会の記録

環境学館いずみの自然観察の連続講座では、ほぼ毎年魚とりを行い、記録しています。捕獲の場所、時期、方法等は以下の通りです。

- ① 場所：高麗川の戸口橋もしくはこれよりやや下流。
- ② 時期：7月～8月の夏のほぼ10：00～11：30（天候や河川の状況で未実施年あり）
- ③ 捕獲者：魚類に詳しい講師の指導の下、講座の参加者、ほぼ20～30名程度。
- ④ 方法：玉網（タモ）による。（タモでは採りにくい種は、確認できていません。）
- ⑤ 記録の対象：魚類とエビ（アメリカザリガニは未記載）
- ⑥ 種の同定：講師による目視判定。

魚種のリストは、当日捕獲できた種を「○」で示しています。

河川の水量等によって、取る場所や魚の状況が変化するので単純に経時変化を見ることができませんが、ヌカエビについては確実に減っていると言えます。また、ムサシノジュズカケハゼとオウミヨシノボリ（以前のトウヨシノボリ）はどちらかが増えると他が減る傾向にありそうです。2019年には、心配していた特定外来種コクチバスの稚魚が捕れ、2020年も成魚が捕れました。

自然観察会で確認できた魚たち

調査年月日	2010年 8月22日	2015年 8月23日	2018年 8月26日	2019年 7月18日	2020年 8月16日
講 師	渡辺昌和先生	渡辺昌和先生	久保武彦先生他	久保武彦先生他	久保武彦先生他
川の状況	平常状態	17日に大水が出た	水量かなり多い	水量多い	平常状態 19号台風で川が様変わり。
アブラハヤ	○	○	○	○	○
スナゴカマツカ			○		○
ニゴイ			○		○
ギンブナ			○		
ヒガシシマドジョウ	○	○	○	○	○
ドジョウ					○
ギバチ	○				
ムサシノジュズカケハゼ	○	○	○	○	○
カジカ（大卵型）	○	○		○	○
オイカワ	○	○			○
カワムツ	○	○			○
タモロコ		○	○		○
ナマズ				○	○
オウミヨシノボリ	○	○	○		○
ミナミメダカ			○	○	○
コクチバス				○（稚魚）	○
スジエビ	○		○	○	○
ヌカエビ	○	○			
カワリヌマエビ（シナヌマエビ）		○	○	○	○

（稲垣）

10.3 虫たちの記録

市内で観察した虫たちの記録を、表にまとめました。

①場 所：坂戸市内

②時 期：平成29年～令和2年（いずれも3月～10月）

観察時間は概ね午前中

③記 録 者：河合

④方 法：目視、まれに捕虫網による採集

⑤記録の対象：チョウ、トンボ

⑥種の同定：写真による判定または目視、拾った羽（チョウ）

⑦表の見方：観察期間内に確認できたチョウとトンボを、それぞれ月ごとにまとめました。

◎→いつも観察できる、○→観察できることが多い、△→ときどき観察できる

▲→まれに観察できる

○チョウについて

外来種については、アカボシゴマダラがゴマダラチョウと比べて確認個体数が多く、在来種の減少が心配されます。

絶滅危惧種では、最近の調査でジャノメチョウ・ミスジチョウが市内で確認できていません。

○トンボについて

絶滅危惧種のムカシヤンマが年によって確認できないことがありますが、それ以外の絶滅危惧種はほぼ毎年確認できています。

絶滅危惧種ではありませんが、ミルンヤンマ、ミヤマカワトンボ、モノサシトンボ、ホソミオツネントンボは、年によって確認できないことがありますが。オツネントンボ、オジロサナエは期間内(平成29年～令和2年)に確認できませんでした。

(河合)

坂戸市内で観察できた虫たちの記録 (チョウ)

◎いつも ○ふつうに △ときどき ▲まれに

昆虫名	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
クロアゲハ			○		○		○	
アゲハ	○	○	○	○	○	○	○	○
キアゲハ		○	○	○	○	○	○	
ジャコウアゲハ			○		○	○	○	
アオスジアゲハ		○	○	○	○	○	○	○
カラスアゲハ			▲			▲		
ナガサキアゲハ			△		△		△	
モンキアゲハ			△	△		△	△	
ウスバシロチョウ		△						
ホソオチョウ		○			○	○	○	
モンシロチョウ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
モンキチョウ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
キタキチョウ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ツマキチョウ	○	○	○					
スジグロシロチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○
ベニシジミ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ヤマトシジミ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ツバメシジミ		○	○	○	○	○	○	
ルリシジミ	△	△	△	△	△	△	△	
コツバメ	△	△						
ウラナミシジミ							◎	◎
アカシジミ			△	△				
ウラナミアカシジミ			△	△				
ミスイロオナガシジミ			△	△				
トラフシジミ			▲	▲	▲			
ウラゴマダラシジミ			○	○				
オオミドリシジミ				▲				
ウラギンシジミ		○	○	○	○	○	○	
ムラサキシジミ		○	○	○	○	○	○	○
ムラサキツバメ							△	△
ゴイシジミ			△	△	△	△	△	△
キタテハ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ヒメアカタテハ			○	○	○	○	○	○
アカタテハ	△		△			△	△	△
ルリタテハ	○	○			○	○	○	
コムスジ		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ミスジチョウ								
イチモンジチョウ			○	○	○	○		
アサマイチモンジ			○	○	○	○		
サカハチチョウ							▲	
ツマグロヒョウモン		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ミドリヒョウモン							△	△
メスグロヒョウモン							▲	
ウラギンヒョウモン			▲				▲	
オウギキンスシヒョウモン				▲				
テングチョウ	○	○	○	○	○			
コムラサキ			△	△	△	△		
ヒオドシチョウ	▲	▲	▲					
ゴマダラチョウ			△	△	△	△	△	
アカボシゴマダラ			○		○	○	○	
オオムラサキ					▲	▲		
ヒメウラナミジャノメ		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ヒメジャノメ			○	○	○	○	○	○
コジャノメ			○	○	○	○	○	○
ヒカゲチョウ			○	○	○	○	○	○
クロヒカゲ		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ジャノメチョウ								
サトキマダラヒカゲ			◎	◎	◎	◎	◎	
クロノマチョウ		○	○	○	○	○	○	○
アサギマダラ								▲
ダイミョウセセリ			◎	◎	◎	◎	◎	◎
ギンイチモンジセセリ		△			△	△	△	
イチモンジセセリ			◎	◎	◎	◎	◎	◎
チャバネセセリ				○	○	○	○	○
オオチャバネセセリ				△		△		
ミヤマセセリ	○	○						
キマダラセセリ				○		○		
ヒメキマダラセセリ			○	○	○	○		
コチャバネセセリ			△	△	△	△		

…は絶滅危惧種

坂戸市内で観察できた虫たちの記録（トンボ）

◎いつも ○ふつうに △ときどき ▲まれに

昆虫名	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
クロスギンヤンマ				▲				
ギンヤンマ					○	○	○	
サラサヤンマ			△	△				
ミルンヤンマ						▲	▲	▲
カトリヤンマ					△	△	△	△
オニヤンマ						○	○	○
コオニヤンマ				○	○	○	○	
コヤマトンボ			△	△	△		△	
ムカシヤンマ			▲					
オナガサナエ				○	○	○	○	
ヒメサナエ			△	△				
オジロサナエ								
ホンサナエ			△					
アオサナエ			△					
ヤマサナエ			△	△				
ミヤマサナエ				△				
ハグロトンボ				◎	◎	◎	◎	◎
アオハダトンボ			○	○				
カワトンボ			○	○				
ミヤマカワトンボ				▲				
オオアイトトンボ							○	○
シオカラトンボ			◎	◎	◎	◎	◎	◎
オオシオカラトンボ			○	○	○	○	○	
ハラビロトンボ					○	○	○	
チョウトンボ				▲	▲			
ノシメトンボ							△	△
コノシメトンボ					△		△	△
リスアカネ						△	△	
マユタテアカネ				○	○	○	○	○
ミヤマアカネ				○	○	○	○	○
アキアカネ					◎		◎	◎
ナツアカネ					○	○	○	○
ウスバキトンボ					◎	◎	◎	
コシアキトンボ				△	△			
ショウジョウトンボ					△	△		
オツネトンボ								
ホソミイトンボ			○			○	○	
アジイトンボ					○			
ホソミオツネトンボ	△		△		△			
モノサシトンボ						▲		

…は絶滅危惧種

1 1. 講師紹介

私たちの講座を支えてくださった講師の方々を紹介します。

この方々以外にも色々な講師にお世話になりましたが、本誌に係る方々のみ紹介させて頂きました。（順不同）

<p>萩原 昭 講師</p>  <p>自然の中に生きている植物、生き物が好きで研究熱心なナイスガイ！</p> <p>所属：サワギキョウの会代表 講座担当：城山、滝不動の植物観察会</p>	<p>坂口 稔 講師</p>  <p>環境の変化が鳥たちの生態を脅かしてしまう事を心配しながらやさしく見守っている</p> <p>所属：高麗川ふるさとの会 講座担当：浅羽ビオトープの鳥たちの観察会</p>
<p>福島 倫子 講師</p>  <p>植物を学術的に研究・分析、植物の「なぜ？」を分かり易く解き明かしてくれる</p> <p>所属：前高麗川ふるさとの会 講座担当：浅羽ビオトープ、小沼の植物観察会</p>	<p>富田 恵理子 講師</p>  <p>自然の中で生きていく鳥や動物たちの観察を続けるぶれないフィールドワーカー</p> <p>所属：鳩山野鳥の会 講座担当：小沼、滝不動の鳥たちの観察会</p>
<p>河合 清 講師</p>  <p>蝶をはじめ、小さな生き物たちを愛する笑顔の素敵な環境学館の物知り！</p> <p>所属：坂戸市環境学館いずみ 講座担当：泉町桜堤公園付近、浅羽ビオトープの虫たちの観察会</p>	<p>稲垣 喜弘 講師</p>  <p>地層の成り立ちを科学的に分析、その上に広がる自然の魅力にはまっている</p> <p>所属：坂戸市環境学館いずみボランティアスタッフ 講座担当：坂戸台地、滝不動、多和目の湧水等観察会</p>

(赤尾、山田)

編集員一覧

坂戸市環境学館いずみボランティアスタッフ	稲垣喜弘
同	小西修也
同	松田映子
同	山田和子
坂戸市環境学館いずみ職員	河合 清
坂戸サワギキョウの会	萩原 章
高麗川ふるさとの会	福島倫子
鳩山野鳥の会、環境学館いずみボランティアスタッフ	富田恵理子
(団体別あいうえお順)	

協力者

赤尾美和、池辺悠子、齊藤安雄、坂口稔、鈴木伸、鈴木良治郎、
代政雄、田中功、塚越俊陽、角田ひろみ、平田更一、渡辺昌和
(あいうえお順、敬称略)

表紙 高麗川四日市場付近 2019年4月

坂戸の自然、川と共に

—環境学館いずみ 自然観察会の成果—

2021年3月20日

編集 坂戸市環境学館いずみ 冊子作り有志
発行者 坂戸市環境学館いずみ
住所 埼玉県坂戸市泉町3丁目25-1
電話 049-284-7115